

メコノプシス属（ケシ科）の栽培  
（中間報告）

須田 泰夫

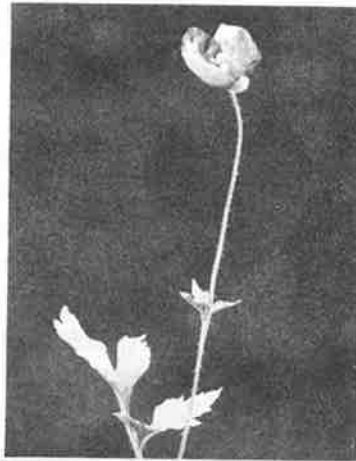
メコノプシス属の植物を暖地で栽培することは難しいが、冷房温室等を利用することにより可能にならないか試みている。これまでの経過について報告する。播種した種類と発芽、生育結果は表のとおりである。現在、生育中のものは *aculeata*, *cambrica*, *latifolia* の3種でいずれも数株程度、そのうち開花したのはヨーロッパ原産の *cambrica* 種のみであり、目的とするヒマラヤ地方原産のものはまだ開花に至っていない。

発芽率は良いが、幼苗は乾湿の変化や過湿に弱く根からいたむことが多かった。生育については、56年には6月後半に雨が続いた頃にほとんど枯れたが、57年の6月はさわやかな日が続いたので株の生育は良かった。同じ6月ではあるが条件は対照的であった。

これまでの栽培から、今後の課題として①発芽初期の苗の立枯れ防止、②生育期の高湿回避の2点をあげることができる。これらの解決法として①については、発芽後の通風などの環境条件の改善及び薬剤施用などの処置を行い、②については冷房温室の利用のほか、播種時期をかえ、低温期に生育させるような生育パターンの確立を行い、開花させたい。



メコノプシス・アクレアタ (*M. aculeata*) の苗



メコノプシス・カムブリカ (*M. cambrica*) の花

Meconopsis 属播種生育一覧表

(昭和57年12月25日現在)

種名	導入先	播種	発芽	生育	開花
<i>aculeata</i>	56.3.19 エーテポリ植物園	※ 56.4.11	56.4.22	生育中	未
		56.4.11	56.4.30		
<i>betonicifolia</i>	56.3.23 ボン大学植物園	57.1.6	未		
		※ 56.4.11	56.4.22		
		56.4.11	56.4.30		
	56.3.19 エーテポリ植物園	57.1.6	57.3.10		
		※ 56.4.11	56.4.22		
<i>cambrica</i>	56.3.23 ボン大学植物園	56.4.11	56.4.30		
		57.1.6	57.3.18		
		56.4.11	56.4.22		
		57.1.7	57.3.18		
<i>grandis</i>	56.3.2 ベルリン・ダーレム植物園	56.3.3	56.4.6	生育中	未
		57.3.31 アルバータ大学植物園	57.3.31		
<i>horridula</i>	57.4.12 アムステルダム大学植物園	57.4.13	未		
<i>latifolia</i>	56.3.19 エーテポリ植物園	※ 56.4.11	56.4.27		
		56.4.11	56.4.30		
		57.1.7	57.3.18		
<i>quintuplinervia</i>	57.2.24 ストックホルム植物園	57.2.25	未	生育中	未
<i>robusta</i>	56.7.1 チューリッヒ大学植物園	56.7.13	未		
	56.7.13 グラーツ大学植物園	56.7.13	未		
<i>sheldonii</i>	57.3.31 アルバータ大学植物園	57.4.4	57.5.8		

- 置場所は無加温の建物内または屋根下
- 用土はミズゴケ、パーミキュライト、赤玉土など（鉢播き覆土なし）
- ※はシャレに播いたもの（蓋付、脱脂綿に濾紙を重ねる）
- 冷房温室利用期間56年7月上旬～9月中旬、57年7月中旬～9月中旬（設定温度18～25℃、湿度60～90%）